

# 35周年記念 2017年度後期「イノベーションフォーラム21」

－ 激変する科学・技術本流と世界経済・産業地図、日本独自の企業価値の創出を考える－

と き・講 師

ご 依 頼 テ ー マ ・ 概 要

1

2017年

12/19  
(火)



**古河建規氏**  
SOLIZE 株式会社  
取締役会長

## 『金属3Dプリンターと SOLIZEの今日の挑戦』

ものづくりのデジタル化技術導入で製品開発の進化を牽引。自動車産業始め、グローバルに様々な産業において3D設計・解析エンジニアリング業務を請け負い、自動車の電動化や自動化が進む中、MBD (Model Based Development)を推進。又、3Dプリンターの国内最大級の保有台数を誇り、ものづくりを根本的に変えてしまう可能性を秘めた金属造形事業に注力。ものづくりで培ったエンジニアリングと、暗黙知を形式知化しながら経営変革を実行する変革力の融合により、顧客の価値の最大化を図っている。



金属3Dプリンター



光造形3Dモデリングによる造形物

2

2018年

1/31  
(水)



**三瓶政一氏**  
大阪大学 電気電子情報工学専攻  
教授

## 『5G テクノロジーで大変革する 超高速ネットワーク』

5G (第5世代移動通信システム)でネットワーク関係が大きく革新されようとしている。氏は第5世代モバイル推進フォーラム技術委員長。インテリジェント無線伝送方式研究の第一人者。セルラシステムの基本要素・適応変調技術を世界に先駆けて開発。5Gは今日と桁違いの超高速・大容量、超多数端末接続、超低遅延、超高信頼性を高め、インダストリー4.0やIoTニーズに対応しようとしている。5Gで可能となる変革を考えたい。



5G時代の社会変革

3

2/16  
(金)

この回は兵庫県加西市の同社工場を実際に見学させていただきます。



**高見千秋氏**  
(株)シルバーロイ  
代表取締役社長

## 『AI・IoTの時代、今、改めて注目すべき日本の世界最高峰の超高度加工技術』

同社は、超硬合金の技術開発に全てをかけて来た企業。新素材開発、世界最高の品質の均一性、加工技術に取り組み、φ0.08mmの孔開加工や0.05mmの研磨取代など、画期的超硬合金加工技術を開発して、世界最高の評価を得ている異色企業。圧倒的な製品能力を持つ。AI、IoTという風潮に気をとられ、日本がこれまでに培い、切り開いて来た世界最高峰の独自技術に気付かないと、日本は取り返しのつかないことになる。



超硬合金部品の加工現場



同社加工の超硬合金部品

4

3/15  
(木)

3/14日から15日へ日程変更となりました



**内海 弦氏**  
アーム(株)  
代表取締役社長

## 『ARMが挑む技術・製品開発戦略、今後へのビジョン』

同社は、省電力設計と高セキュリティ通信を実現する技術力、半導体製造企業に対して設計図のみを提供すると独自のビジネスモデルを確立し、米インテルに匹敵する半導体産業の中心企業の地位を固めつつある。英国半導体設計メーカー。2016年7月、ソフトバンクが3.3兆円強で買収。孫氏は、これで「IoT」時代への布石は打てたと話す。曾て世界でインテルがデファクトスタンダードを握ったように、今後はアームだと孫氏は言う。



インテルを超えて拡大成長する市場



アーム + ソフトバンク

5

4/12  
(木)



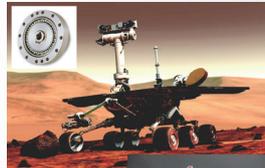
**清澤芳秀氏**  
(株)ハーモニックドライブ・システムズ  
フェロー(最高技術責任者) 執行役員

現時点世界最高峰のハーモニックドライブの技術力

## 『モーション・コントロールの更なる高度化を求めて』

同社はトータル・モーション・コントロールの更なる高度化を目指す技術集団。宇宙衛星の太陽電池パネルの位置・姿勢制御でも活躍。NASA・JAXAが共に認める、現時点で、世界最高峰のモーション・コントロールの技術力を持つ。同社開発の小型指ロボットが1秒間に4m落下するボールを指先で掴む瞬間は、人間の目に見えない超高速(0.01秒以下)動作。同社の技術は、独カールツァイスの脳外科手術システムにも採用されている。

火星探査機オポチュニティーを駆動  
NASAとJAXAが認めた現時点での最高峰の技術力



速度限界に迫る超高速領域で、人間同様、目と手の協調動作をする超高速ロボットコア技術を実現させたコア技術。

6

5/18  
(金)



**重見聡史氏**  
(株)ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン  
シニア・チーフ・エンジニア

## 『意識下と無意識下の世界で働く AIを求めて』

人と共存する機械の実現を求め、意識下と無意識下で働くAIを求めている。生物は殆ど無意識の世界でセンシングし、行動しているのだという。一々論理の世界に置き換えて昆虫や魚などは考え、行動しているのではないのだそうだ。ここに今日のAIの大きな問題があるかも知れない。今までのホンダでのロボット研究をご紹介いただき、今後、人と共存する機械の実現を目指して、そのような無意識下の世界にも働きかけるAIを考えていこうとする試みをご紹介願う。新たな知見が生まれる可能性がある。



ASIMO

毎回の基本スケジュール 13:30~14:30 講演 前半 15:00~16:00 講演 後半  
14:30~15:00 コーヒーブレイク 16:00~17:00 Q & A

会場 森戸記念館 (東京・神楽坂)

新経営研究会 <http://www.shinkeiken.com>